

備中地池（びっちゅうじいけ）

位置図



備中地池

諸元

貯水量	321	千m ³
満水面積	5.7	ha
受益面積	100	ha
堤高	21.6	m
堤長	103	m

備中地の地名は、戦国時代にこの地を支配し、池の北に聳える城山に拠った讃岐藤家の羽床氏の一族造田備中守にちなむものである。備中守は、天正年間（1573～1592年）に讃岐に侵入した長宗我部元親と戦って敗死したので、備中地池の周辺には首切峠、首切地蔵などの落城に伴う多くの伝承が残されています。

池は城山（428m）の南麓に位置し、まんのう町（旧琴南町）ではこの地区を「備中地池畔自然愛護地区」に指定、池畔周路を整備し、桜やツツジを植樹して美化が図られたこともあってか、溪流や池畔が風光に優れています。池の中央には台地が残っていて、満水時には島状になります。近くにはゴルフ場も開設されています。

備中地池は、土器川右岸の耕地の用水補給のため、県営土器川右岸用水改良事業の最上流の用水源として計画されたもので、昭和37年（1962年）9月8日に竣工しました。（『讃岐農林業の石碑』備中地池の碑文）

その後、平成7年～10年度（1995年～1998年）、国営総合農地防災事業で取水施設の更新や浚渫等の改修が行われました。

受益地は旧琴南町造田、旧満濃町長尾の100haが優先してその恩恵を受けることになっていますが、岡田地区以南の水田かんがい期間（晩期）の補助用水として貢献することが大きく、地域の農家の方々に感謝されています。旧琴南町造田・旧満濃町長尾の受益農地では、主に水稻・キャベツ・玉ねぎ・ブロッコリー・たばこ・ネギなどが栽培されています。



備中地池※



堤体より城山を望む

※写真は国営総合農地防災事業香川地区事業誌より